

会 議 録

会議名	平成 23 年度第 1 回八王子市博物館協議会	
開催日時	平成 23 年 5 月 31 日（火）午後 6 時 30 分～8 時 25 分	
開催場所	八王子市郷土資料館集会室	
出席者	委員	大村のり子、小野一之、柿崎博孝、田野倉宏和、西嶋佳子、深栖義昭、藤岡換太郎、吉田幸子、（50 音順）
	事務局	齋藤和仁生涯学習スポーツ部主幹（こども科学館担当）・田島巨樹文化財課長・森融こども科学館主査・戸井晴夫郷土資料館主査、尾崎光二郷土資料館主査
欠席者	田村知美、山中幸生	
議 題	協議事項 平成 22 年度八王子市こども科学館及び郷土資料館事業実施状況と施設評価について	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会議次第 2. こども科学館事業実施状況 3. 郷土資料館事業実施状況 4. 施設評価シート 	

<p>会議の内容 (要旨)</p>	<p>八王子市こども科学館の事業実施状況と施設評価について齋藤こども科学館館長から説明。つづいて八王子市郷土資料館事業実施状況と施設評価について郷土資料館尾崎主査から説明。</p> <p>質疑応答</p> <p>小野会長 両館から説明がありました。ご意見をいただきたいと思いません。</p> <p>小野会長 吉田委員</p> <p>吉田委員 郷土資料館について伺います。施設評価の目標値の設定が前年度の実績と過去3年間の平均値と2種類ありますが、理由を説明願います。</p> <p>尾崎主査 予算による影響の少ないものを3年間の平均値に、影響を大きく受けるものを前年度の実績値にしております。</p> <p>小野会長 藤岡委員</p> <p>藤岡委員 郷土資料館の講座ですが。歴史講座を初めて行う等、数字的には良かったと思いますが、内容的にはどの点に重点を置いたのでしょうか。</p> <p>戸井主査 分かりやすい八王子の歴史入門と位置づけです。講座終了後のアンケートでは、今後も続けてほしいという意見が多かったです。内容的にも易しく分かりやすかったという意見が多かったようです。</p> <p>藤岡委員 参加者は、八王子の人が多かったのでしょうか。</p> <p>戸井主査 ほとんどが八王子在住の人でした。</p> <p>藤岡委員 八王子の人にやるのも良いのですが、八王子以外の人を対象にするのも良いと思いますが、アンケートには参加者の地域についてはなかったのでしょうか。</p> <p>尾崎主査 募集は八王子市民を対象にしたの広報のみで案内をしたので、参加者の地域については考えていませんでした。</p> <p>藤岡委員 気になった点は、最後の「八王子のまつり」の参加者が減ったということです。原因について分析されていますか。</p> <p>尾崎主査 計画段階では、八王子まつりも大変賑わっていますし、地域ごとにも行われていますので、人気講座になると考えていました。原因としては、身近すぎて聞かなくても良いと考えているのかと思います。3月に山車調査報告書が完成し、販売をしておりますが、すでに700冊近く売り上げていますので、関心を持っている人は多いと考えています。</p> <p>藤岡委員 歴史講座を市外の人が多く聴きにきた方が、良いと思います。</p>
-----------------------	--

	<p>府中市郷土の森博物館で、「くらやみ祭」の講座を聴いたが、大変良く、面白く聞いた。八王子の歴史入門も八王子市外の人に多く参加してもらい、八王子のこと多くの人に知ってもらった方が、観光資源の面からも良いと思います。八王子の歴史入門講座は八王子の良さを見直してもらうことを目標にした講座に位置づけした方が良いと思います。また、市外の人を対象者と考えると、講座の内容がローカルなので八王子の人には分かるが、外の人には難しい印象があった。たとえば、全国のものとの比較などがあれば受け入れやすく、分かりやすくなると思うので、流れやストーリーの工夫が必要と思うし、そういったことも評価の対象としていたら良いと思う。</p> <p>小野会長 私も同感で、中身と参加者のキャバを充実させる事業と思います。</p> <p>大村委員 郷土資料館の入館者数の把握方法について伺います。こども科学館は有料ですが、郷土資料館は無料なので、どのようにして入館者数を把握していますか。</p> <p>尾崎主査 入り口にセンサーが設置してあります。</p> <p>田野倉委員 郷土資料館の歴史入門講座ですが、4 テーマを 1 講座として行っています。1 テーマ毎に開催出来ないでしょうか。千人同心について特に関心があるというような人の要望に応える対応も必要と思いますので、連続講座と単独のテーマの講座をそれぞれの開催を検討していただきたい。</p> <p>尾崎主査 一つは、八王子の歴史を知らなかった人に、広く八王子の歴史をしてもらいたいということがあります。もう一つは、事務手続きが煩雑になるということもあります。検討させていただきます。</p> <p>藤岡委員 歴史入門の応募者が 200 人以上もあったのだから郷土資料館の事業として増やしていくことは考えていないのか。</p> <p>尾崎主査 開催するための会場の確保の問題があります。郷土資料館にスペースが無いので、会場を確保するために共催という形で始めました。関係所管と調整をしたいと思います。</p> <p>田島課長 200 人以上の応募があるのに、市民の希望に添えないというのは心苦しいところもありますので、今年度中に実施出来るかも含めて、検討させていただきます。</p> <p>深栖委員 歴史講座の実施日が金曜日ということで、参加出来る人が限られてしまうので、土日の開催を出来ないでしょうか。</p>
--	---

	<p>戸井主査 開催日に関しては、会場の利用状況と郷土資料館の職員の勤務体制から決定していますが、今後検討いたします。</p> <p>柿崎委員 評価についてですが、こども科学館の方で、基本目標の策定と公開で、平成21年度に基本計画、基本方針を策定済みとなっています。評価はこれで良いですが、策定しても公表しないと意味がないと思います。また、策定から経過とともに見直して改訂を行い公表すると良いと思います。郷土資料館につきましては、評価の項目と上手く連動していない。たとえば、資料の有効活用と充実というところですが、所蔵資料の充実のところに、「研究紀要、展示図録を発行した。」とありますが、調査研究の成果の公開ところにまとめた方が良いと思います。調査研究というのはもっと幅が広いのであって、展示とその成果を結び付ける。こういう調査研究のもとに企画展に結び付けたとかを入れた方が、評価というものが生きて来ると思います。展示のところは、入館状況に置き換えて展示は展示で評価した方が良いと思います。たとえば、常設展の更新であるとかリニューアルであるとか資料を入れ替えたとか。企画展であれば、いつからいつまでこういうものを行ったという内容のものにした方が適切だと思います。教育普及事業の中で、展示解説等も教育プログラムの一つだと思いますので、実績として入れると良いと思います。以上要望として申し上げます。</p> <p>斎藤館長 こども科学館の方では、基本方針、基本計画については、早急に公開して行きたいと思います。</p> <p>尾崎主査 評価シートの項目と内容について、ご指摘をいただきましたので、見直したいと思います。</p> <p>小野会長 確かに資料の充実や修理の方を控えめにして、目に見える公開の方を高い評価にしているのが、気になりましたがもう少し関連していても良いかと印象を持ちました。</p> <p>大村委員 市民会館が移転しましたが、今まで市民会館に来た人が郷土資料館に立ち寄ることも多かったと思います。今後の対応を何か考えていますか。こども科学館の方ですが、日曜日に行っているのですが、ものすごい人気になり、満杯でお客様が身動きできないくらい入って、これが限界というような時もあります。今後、入館者を増やそうとすると平日のイベントを工夫する必要があると思いますが、対応を考えていますか。</p>
--	--

	<p>尾崎主査 市民会館が移転するという事で、来館者が減少することを心配し、4月の入館者数がどの位になるのか注目していました。結果として2,137人の入館がありました。平成18・19年度は2,000人を割り込んでいたので、まずまずの数字かと思います。事業実績の説明でお話しましたが、今回は特別展の会期を延長して5月8日まで行っていたことが良かったと考えています。今後も規模は小さくても企画展示などを開催し、PRを続けて行けばある程度入館者は確保できると思います。</p> <p>田島課長 私も就任してまず危惧したのが、市民会館の移転にともない郷土資料館の入館者数が減るのではないかということです。そこで、南口総合事務所の多目的スペースで過去に行った特別展の資料を展示して郷土資料館の案内をし、郷土資料館の名前や価値をPRしようと考え、4月からゴールデンウィークまでパネル展を開催しました。南口総合事務所の所長とも調整しまして、出来る限り定期的に資料の展示を行い八王子に転入して来られた方にお知らせしていくことにしました。また、マスコミなども活用して郷土資料館をアピールして行きたいと考えています。</p> <p>斎藤館長 こども科学館ですが、昨年の夏、特にお盆の最中にハヤブサを投影している時は閉館時間ぎりぎりまでかなり沢山のお客様が来まして混雑している状況がありました。今年度に入ってから、5月5日の子供の日には1,300人のお客様に来てくださって、延べ床面積から言うとキャパシティー一杯の状況があります。この土日も雨が降りまして土曜日に900人を超えるお客様に来ていただき混雑いたしました。マーケティングは難しいのですが、今回の混雑はある程度予測出来ました。子供の日と土曜日は無料で天候が雨、土曜日に予定されていた運動会が中止になったということで上積みがあると考えていました。分析はある程度出来ませんが、何らかの対策を検討しなくてはいけないと思っておりますが、このお客さま方を平日に振り分けて平日に来ていただくということは難しい状況です。また、入場制限を行い、入館者数を抑え、事業やPR活動を減らすという状況ではなく、今まで通りPR活動を続け入館者が集中する時があっても今まで通り続けて行くことが必要と考えています。協議会で平均化</p>
--	---

	<p>する良い方法等の提案があれば努力したいと思いますが、平均化することが難しい状況の中では、キャパシティーを超える日があることを感謝するような気持ちで頑張っていきたいと考えています。</p> <p>小野会長 こども科学館について事業報告の中で、今年は大人の方の観覧者が増えたという報告がありました。これは、新しい展開かなと思ひまして、納得しつつ喜ばしいことだと思ひました。ターゲットを絞るということが一般的には言われていますが、今の状況を見ますと相乗効果なのですね。「大人が増えれば子供が増える。」「子供が増えれば大人も増える。」印象があると考えています。こども科学館の場合には、名前に「こども」と付いているので、それが非常にネックだと思ひていたのですが、昨年ハヤブサブームもありましたが、大人が増えるということは、今後のつながる新たなステップかと思ひました。二つ目が、PRの問題なのですが、この評価シートの中でもPRを主要な施策ということで力を入れているとありますが、ホームページの中でもプラネタリウムがリニューアルした最新の機器だということをもっと積極的に謳わないと損だと思ひます。たとえば、八王子より前にリニューアルした葛飾区の郷土と天文の博物館は、今でも博物館プラネタリウムのページのトップに世界最新鋭ですとか日本初導入だとか、といった謳い文句が入っています。渋谷区もそうです。両区とも区の限られたホームページの中の最初にこの謳いが出てきます。八王子はどうかというと、一番最初に、この夏節電のために毎週月曜日を休館しますということが入っていますね、リニューアルのことがどこに書いてあるかと言うと奥の方に入って「平成 21 年にリニューアルしました。」それだけなんですね。もったいないと思ひます。まだまだ新しい機械としての賞味期限が継続してあるはずですが、こっちはリニューアルして良い機械だということアピールしないことは、府中を喜ばしているだけです。ハヤブサブームという点では、府中も昨年度、プラネタリウムだけで 27.4%増えています。5 万人台だったのが 7 万人をオーバーしている状況の中で、八王子はもっとリニューアルした最新機器だということをもっともっとアピールしてもらいたいと思ひます。以上です。</p>
--	---

齋藤館長	貴重な意見をありがとうございます。早速反映して行きたいと思います。
小野会長	深栖委員
深栖委員	この評価表ですが、施設評価という点では全体的なバランスは良いと思いますが、4番目の項目の満足度ですが、両館の調査のやり方と評価の仕方が違いますので、両館統一した方法でやったデータを持っていても良いと思います。来館者の意見をもっと反映させることも必要と考えます。たとえば、大人の意見、子供の意見分けて分析するようなことも良いと思います。
齋藤館長	両館で、評価の内容・方法について引続き検討させていただき良い方向に向けたいと思います。
小野会長	藤岡委員
藤岡委員	3年間の入館者数を見ると、郷土資料館の方はイベントをやっている割に8月に3年間全然ピークがない。平成21年度では2月にピークがあるので一つ課題かと思います。こども科学館の方は8月のピークが非常に大きくて、12月は3年間の見ても落ちているので、ピークの山は一つだけではなく分散できれば来館者数を増やすことが出来ると思います。たとえば、新しい作品を12月に公開するようなことをすると新しいピークの山がここに出来ると思います。郷土資料館のという名前がなんとなくとつき難いです。サイエンスドームのような愛称をつけて人を呼ぶことも必要かと思います。郷土資料館というとコアな一部の人だけが対象になる様な気がします。
小野会長	新館の構想もあるようですので、その中での検討課題とも言えます。
深栖委員	12月に落ち込むのは休みとの関係があると思います。正月や進みを利用する手立てもあると思います。たとえば、正月も開館して来館者を集めるようなことも考えられます。
西嶋委員	塾で教えていたことがあり、子供たちに聞くと、常設展の方は分かりやすいが、特別展は難しすぎて自分たちには分からないと言います。大人向きの展示ということは分かりませんが、子供を連れていて噛み砕いて説明すると分かりますので、説明方法を工夫すると子ども達にも関心を持ってもらえると思います。たとえば、ボランティアの方に分かりやすく説明を

してもらおうと中学生や小学校高学年の子供たちは理解出来て興味を持てるようにすると郷土資料館に足を運ぶと思います。

小野会長 吉田委員

吉田委員 郷土資料館から中高一貫校が来館するようになったという報告と隔年で来館するという報告がありました。隔年で来るということは、郷土資料館に来ないで中学校を卒業している生徒がいるということで、これは、先生が郷土資料館をどう解釈しているかで左右されるということでしょう。中高一貫校の場合には6年間という時間がありその中で郷土資料館に行って勉強するカリキュラムを組むことが出来るのだと思います。実際に「触らせる」、「試みさせる」ことは大変重要なことで、ガラスの向こうでは無くて触れるようにしていただきたい。また、今回紙芝居が大変人気があったということで、貸し出しが出来るようにしてもらいたい。展示資料などをCDに入れたりホームページに掲載して、そこから引きだせたりすると事前に学習してから郷土資料館を訪問すると理解が深まるので、そのような道筋を作る必要があるかと思えます。周辺部の学校から伺うには両館ともかなり時間がかかります。こども科学館に行った時には、プラネタリウムを見た後にプラスアルファとして自分で選んで、触ったり体験したりすることで、あれは良かったというようなものを見つけられるように活用しています。郷土資料館の方は、学芸員さんが丁寧に説明してくれたり、自分で調べたりするんですが、触ってみることが足りないかなと思います。自分でテーマを持って行ってもガラス越しで見ることになるので、体験するという面が少し足りないと思います。触れて感動して体験が価値ある体験になります。昔の教科書のコピー本のコーナーでは、子どもたちが、自由に活動しています。いろいろ改革されている面があるので、この面でも是非頑張りたいと思います。

小野会長 事務局は、意見要望としてまとめて検討をお願いします。

小野会長 田野倉委員

田野倉委員 郷土資料館の紙芝居ですが、上演しているところを実際に見るのが一番だと思いますが、ビデオで撮影して、いつでもテレビで繰り返し見ることが出来るようになっているのでし

ようか。

戸井主査 撮影はしておりません。月に1回郷土資料館で、上演しております。

田野倉委員 こども科学館の方ですが、郷土資料館では毎年、学芸員が研究の成果を発表しています。こども科学館の方でも出来れば良いと思っています。そのためには、学芸員を配置する必要があります。また、学芸員が常駐していれば、来館者の質問にもより専門的に答えることができ、資料の提供も出来て、来館者の期待に応えられると思いますので、要望いたします。

齋藤館長 こども科学館では、職として資格職を配置するということにはなっていませんが、職員の中では、主査の森が学芸員の資格を持っています。企画展という形にはなりませんが、天文講座を開催し講師を定期的に努めておりますし、森は気象予報士の資格を所持していますので、天気予報入門という講座も開設しております。嘱託員の資格に関しては、今年度から理科の教員免許取得者または学芸員資格取得者ということにしたので、今まで弱点だった専門性についても、土日に行っている「工作」や「実験ショー」の中身を嘱託員自身が専門性を発揮して充実させていくことが出来ると考えております。今年度から嘱託員の専門性を図ってきたので、結果が出るまで少し時間がかかるのかと思っていましたが、4,5の2ヶ月ですけれども、確実に工作室で行う催しの参加者数やリピーター率に変化が出ていると感じているところでございます。

小野会長 これで本協議会の議事を終了いたします。

--	--

